

ピーターラビットの話



ビアトリクス・ポター さく・え

たちばな こうじ やく





むかしむかしあるところに、四ひきの子うさぎがいたんだ。
名前は、フロプシー、モプシー、コットンテールに、ピーター。
かあさんうさぎといっしょに、大きなもみの木の根もとの、砂でふかふかした穴の
なかに住んでいた。



「いいかい、かわいい子供たち」

ある朝、かあさんうさぎが言った。

「原っぱや小道に行くのはいいけど、マグレガーさんの庭には入るんじゃないよ」



「おまえたちのおとうさんは、あそこで運悪くつかまって、マグレガーの奥さんにパイにされてしまったんだから」



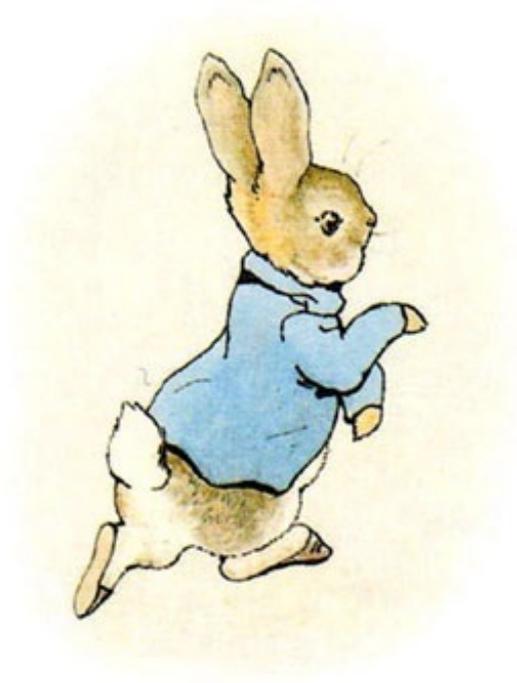
「じゃあ行っといで。いたずらするんじゃないよ。私は出かけてくるからね」



そして、かあさんうさぎはかごとかさを持つと、森をぬけてパン屋へ行き、黒パンをひとつと、ぶどうパンを5こ買った。



フロプシーとモプシーとコットンテールは、良い子うさぎたちだったから、小道におりて行ってクロイチゴをつんだ。



でもピーターは、たいそうきかん気な悪たれだったから、まっしぐらにマグレガーの庭に駆けてって、



木戸の下からもぐりこんだ！



てはじめにレタスを食べ、いんげんをかじり、ハツカダイコンを何本か食べた。



そのうち、ちょっぴり気分が悪くなって、パセリの葉っぱを探しにいった。

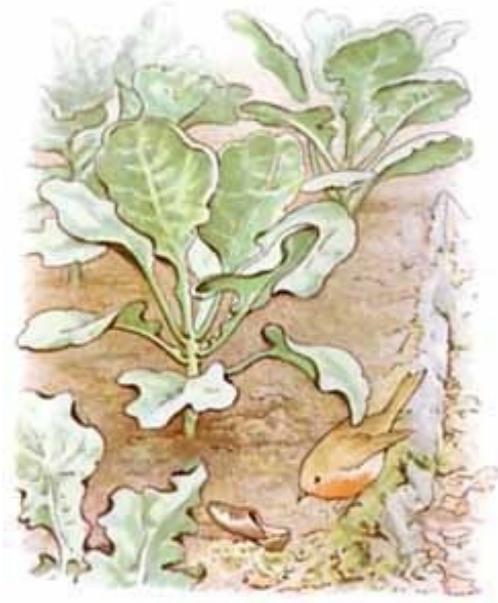


ところがキュウリの温床の角を回ったところで、出くわしたのは誰だろうマグレガーの旦那さ！



旦那は両手両膝ついて、キャベツの苗を植えかえていたんだが、飛びあがってピーターを追っかけてきた。

熊手を振り回し、「待て、どろぼう！」ってわめきながらね。



ピーターはそりゃもう死ぬほど肝をつぶされて、庭じゅう駆けずり回ったよ。
木戸に戻る道を忘れてしまったんだ。

靴の片っぽはキャベツの畝に、もう片方はじゃがいも畑に置き去りにして。





靴を捨ててからは、四本の足で走ったから、ぐんと早くなったんだ。
だから、しゅびよく逃げおおせられたはずだったと思うよ。運の悪いことに、グズベリーの網に飛びこんじまって、上着の大きなボタンをひっかけさえしなけりゃね。
真鍮のボタンがついた青い上着は、おろしたてのほやほやだった。



ピーターは、もうおしまいだと観念し、大粒の涙をこぼした。

でも、すすり泣きを聞きつけた心優しいすずめたちが、夢中でそばに飛んできて、頑張ってちょうだいてピーターに言うんだ。



マグレガーの旦那が、ふるいを持ってやってきて、そいつをぽんとピーターにかぶせようとした。

だけどピーターは、間一髪もがいて抜けだしたんだ。上着をあとに残して。



そうして物置小屋に駆けこむと、じょうろの中に飛び込んだ。
そいつはすばらしい隠れ家だったろう。
水が入っていなかったらね。



マグレガーの旦那は、ピーターが物置小屋のどこかにいるのはおみとおしだった。
たぶん、植木鉢の下にでも隠れてるんだらうってね。
旦那は、鉢をそうっとひっくり返し、ひとつひとつ下をのぞいていった。
そのうちピーターがくしゃみした— ハークション！



旦那がたちまちとんできて、足で踏んづけようとしたもんで、ピーターは植木を三つひっくり返しながらか、窓から外へ飛び出した。
窓は、マグレガーの旦那には小さすぎたから、旦那はそれ以上ピーターを追っかけるのがおっくうになって、畑仕事に戻っていった。



ピーターはしゃがみこんで一休みした。息が切れたし、おそろしさで震えがとまらなかったし、どっちへ行けばいいか皆目見当もつかなかったんだ。
おまけに、じょうろの中にいたせいで、びしょ濡れだった。



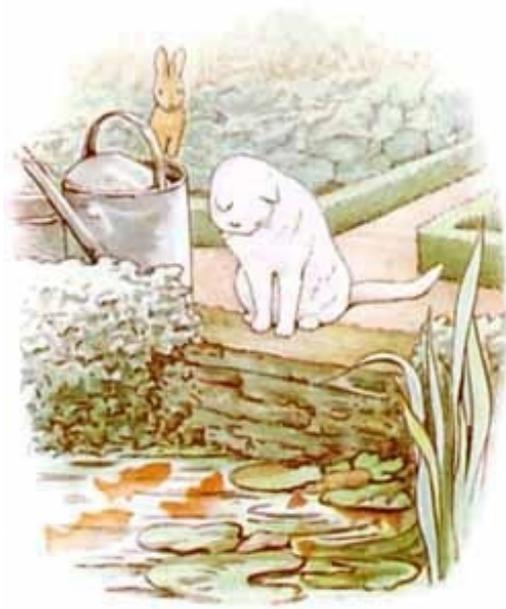
しばらくして、ピーターはそのへんをうろうろしはじめた。
ぺったり、ぺったりと、あまり急がず、あたりを見回しながら。
塀の途中に扉を見つけたけれど、そこには錠がおりていて、ふとっちょの子うさぎ
がもぐりこむ隙なんかなかった。



一匹のおばさんねずみが、戸口の石畳の上を行ったり来たりして、エンドウ豆やら空豆やらを、森の家族のもとに運んでいた。

ピーターが、木戸までの道をたずねても、ねずみはそりゃあ大きな豆を口にくわえていて、返事ができなかった。ただ首を振ってみせただけ。

ピーターは泣きだした。



それでもピーターは、帰り道を見つけようと庭じゅうを探しまわったんだ。

でも、行けば行くほどわからなくなる一方だった。

やがて池に出た。マクレガーの旦那がじょうろに水をくむ池だ。

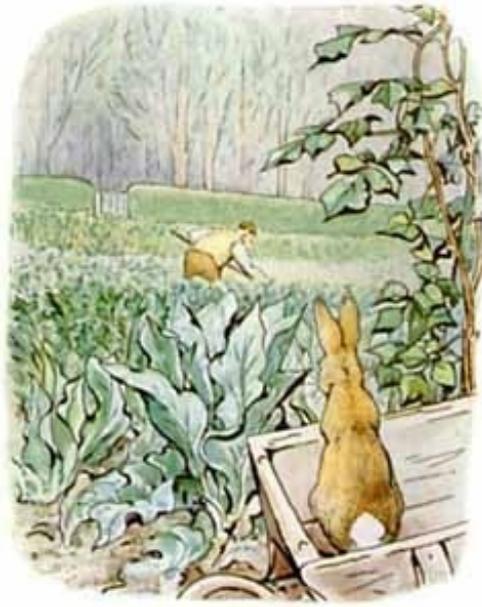
白い猫が、金魚を見つめて、じいっと微動だにせず座ってた。時おりしっぽの先が、そこだけ生きてるみたいにぴくりと動いた。

あの猫には声をかけずに立ち去ったほうがいいと、ピーターは考えた。

猫ってものについては、いとこの小さなベンジャミンバニーから、あれこれ聞かされていたんでね。



物置小屋の方に引き返したところ、だしぬけに、ごく近いところで、鋏を打つ音が聞こえた――ザクッ、ザック、ザック
ピーターは茂みの下に駆け込んだ。



けれど、しばらくたっても何も起らないようだから、ピーターは出てきて手押し車にのぼり、こっそりとあたりをのぞいてみた。
最初に見えたのは、タマネギを掘っているマグレガーの旦那だった。
旦那はこっちに背中を向けていて、そうしてその背中ごしに、あの木戸が見えたんだ！



ピーターは音を立てないように手押し車を降り、黒スグリの茂みの陰のまっすぐな小道を、全速力で駆け出した。

角のところでマグレガーの旦那に見つかったけれど、かまわず木戸の下にすべりこみ、とうとう無事、庭の外の森に出られたのさ。



マグレガーの旦那は、ピーターが残した上着と靴を、ムクドリを追い払うためのカシに着せかけた。



ピーターはいっぺんも立ち止まらず、大きなもみの木の家につくまで、後も見ずに走った。



そしてへとへとになって、兎穴の床の、すてきに柔らかい砂の上にぱったりと倒れこんで、目を閉じた。

晩ごはんの支度で忙しくしていたかあさんが、服をどうしてしまったのと不思議がったよ。

ピーターが上着と靴をなくしたのは、この二週間で二度目だったんだ！



哀れなピーターは、その晩ずっと具合が悪かった。

かあさんはピーターをベッドに押し込んで、カミツレの薬茶を煎じ、苦いそいつをピーターに飲ませた！

「寝る前に、大さじ一杯飲むんだよ」



一方、フロプシーとモプシーとコットンテールは、パンとミルクとクロイチゴの、おいしいごはんをいただいたのさ。

おしまい

ポター作品リスト

Beatrix Potter作品の日本における著作権は消滅し、パブリックドメインに帰しています。
翻訳の底本はFREDERICK WARNE出版の The original and authorized edition です。

1. The Tale of Peter Rabbit (1902) 【[ピーターラビットの話](#) : 2012.3】
2. The Tale of Squirrel Nutkin (1903) 【[リスのナトキンの話](#) : 2012.3】
3. The Tailor of Gloucester (1903) 【[グロスターの仕立屋](#) : 2012.4】
4. The Tale of Benjamin Bunny (1904) 【[ベンジャミンバニーの話](#) : 2012.3】
5. The Tale of Two Bad Mice (1904) 【[二匹のいたずらねずみの話](#) : 2012.12】
6. The Tale of Mrs. Tiggly-Winkle (1905) 【[ティギーウィンクルさんの話](#) : 2012.5】
7. The Tale of the Pie and the Patty-Pan (1905) 【パイと焼き型の話 : 執筆中】
8. The Tale of Mr. Jeremy Fisher (1906)
9. The Story of A Fierce Bad Rabbit (1906) 【[あらくれやくざうさぎ物語](#) : 2012.12】
10. The Story of Miss Moppet (1906) 【[モペット嬢物語](#) : 2012.12】
11. The Tale of Tom Kitten (1907) 【子ねこのトムの話 : 執筆中】
12. The Tale of Jemima Puddle-Duck (1908)
13. The Tale of Samuel Whiskers or, The Roly-Poly Pudding (1908)
【[サミュエル・ウィスカースの話 もしくは、うずまきプディング](#) : 2013.4】
14. The Tale of the Flopsy Bunnies (1909) 【[フロプシーのちびっこたちの話](#) : 2012.4】
15. The Tale of Ginger and Pickles (1909) 【[ジンジャーとピクルズの話](#) : 2013.1】
16. The Tale of Mrs. Tittlemouse (1910)
17. The Tale of Timmy Tiptoes (1911)
18. The Tale of Mr. Tod (1912) 【[ミスタートッドの話](#) : 2012.11】
19. The Tale of Pigling Bland (1913) 【[ピグリンブランドの話](#) : 2013.12】 **NEW**
20. Appley Daply's Nursery Rhymes (1917) 【[アプリー・ダプリーの童謡](#) : 2012.4】
21. The Tale of Johnny Town-Mouse (1918)
22. Cecily Parsley's Nursery Rhymes (1922) 【[セシリ・パセリの童謡](#) : 2012.4】
23. The Tale of Little Pig Robinson (1930) 【[こぶたのロビンソンの話](#) : 執筆中】

原文参照 [Project Gutenberg : Books by Potter, Beatrix](#)

ピーターラビットの話

<http://p.booklog.jp/book/47552>

作者：ビアトリクス・ポター

訳者：橘 柑子

作者プロフィール：<http://ja.wikipedia.org/wiki/ビアトリクス・ポター>

訳者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/tokijikudou/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/47552>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/47552>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.